

コロナ禍拡大により退職後の活動の中心に位置している群馬県卓球ベテラン会の諸活動が2020年2月～2021年9月までほぼストップし、ルーティンワークが大きく変化した。週2回の練習、月2～3回の大会参加がなくなることによって運動不足が高じ体力低下が著しい。毎朝のラジオ体操以外に体を動かす習慣がないため、ものぐさ生活が定着してしまっている。

コロナ禍が発生する前の90分間かけた5種類の新聞ちよい読み、60分間のネット情報収集、90分間の購入書籍読みがそれぞれ倍加してしまった。

頭の働きはそんなに弱った訳ではないが第三者との対話が減ってしまったなかで、数名のメンバーで毎月吉井町公民館を会場に開催されている「『世界』を読む会」は大変刺激になっている。毎回3本程度の課題論文を指定し、読後感を出し合う形式で進められる読書会で、難解な世界論文を読解する上でとても役立っている。最近同じ形式で毎月開催されている全国規模のズームによる「『世界』を読む会」にも参加するようになった。

運動不足を解消するために9月より6千歩の運動を兼ねた自宅⇄北藤岡駅⇄高崎駅⇄シネマテーク高崎での月2回の映画鑑賞を開始した。直近の三作品「パンケーキを毒見する」「サンマデモクラシー」「由宇子の天秤」は評判通り見応えがあった。

『池田理代子第一歌集 寂しき骨』（集英社）は、職業軍人であった父への若かりし頃の私の反発とシベリア帰りの父親への池田の反発が重なり、共感をもって読めた。彼女は哲学科倫理学専攻の私の3年後輩で、在学中に「ベルサイユのばら」が大ヒットし、7年在学後中退した著名な漫画家である。もう1冊の真木和泉『小説 私の東京教育大学』（本の泉社）は1960年代後半～1970年代前半の大学紛争で唯一廃校となった母校で主人公たちが求めた自治と自由と民主の闘いが色あせたものでないことをリアルに描いた作品である。筑波大学移転反対の闘いに敗北した作者を含む当事者たちの卒業後・中退後の生き方のたくましさ、清冽さに感動した。

9月12日朝日歌壇（永田和宏選）掲載の「ツンドクになるだろうけど買いました 加藤陽子先生がんばれ 中村幸生（渋川市）」を読み、40年前の現役時代に沖縄で開催された全国教育研究集会の際に、宿舎で語られた中村先生の満州での壮絶な体験談を思い出した。1945年8月8日ソ連の対日宣戦布告・9日満州領内侵攻の際、先生は、9月にソ連の捕虜となり、その後捕虜収容所を脱走し、自宅にかえったという。この歌に登場する「加藤陽子先生」は菅首相により学会議会員任命を拒否された東大教授で、毎日新聞に月1回掲載された文章をまとめ『この国のかたちを見つめ直す』（毎日新聞出版）として発行した。とても読み応えのある著作であり、お薦めの1冊である。

### 今後の主な予定

- 11月 5日（金）13時～ スタジイ楽書会（フォーラム）
- 11月 12日（金）14時30分～ 原発と自然エネルギー研究部会（フォーラム）
- 11月 19日（金）13時～ スタジイ楽書会（フォーラム）

※3色パステル画寺子屋は主宰者の都合で2月まで休止します。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況等によって中止になる場合もあります。参加を希望される方は事前にホームページや、フォーラムへの電話やメールなどで確認してください。

#### 育ちと学び No. 49 ぐんま教育文化フォーラム

2021年10月22日 発行  
〒371-0026 前橋市大手町3-1-10 群馬県教育会館3F  
[TEL・FAX] 027-235-8876 [IP電話] 050-3419-3803  
[E-mail] g-kyoken@nifty.com  
[URL] <http://gkb-forum.sakura.ne.jp>



スマホからホームページへ

